

くろつち便り

今月の内容

新年の挨拶(会長)／野草折々-39-／
金曜集会(12/11,1/8)／共助会の行事／
(光陰矢の如し)内なる時間／
気になるニュース(無能な政治家；低空飛行
目撃情報；非常事態宣言；大阪地裁判決)／



↑会報QRコード

明けましておめでとうございます

新年の挨拶

くろつち会員の皆さんお元気で新年を迎えられたことにお慶び申し上げます



去年はコロナウィルス感染症のために、くろつち会の多くの行事を中止せざるをえない状況でした。新年を迎えても尚その脅威はやむこともなく、ますます私たちの生活に重くのしかかっています。鹿屋でも感染者が急増し、いつ感染するかわからない状況ですが十分な注意をしていただきたいと思います。

しました。就任早々、日本学術会議の一部の任命拒否や人命よりも経済最優先、無策によるコロナ感染者の急増と国民不在の政治まで継承しているようです。

今年は衆議院選挙の年です。4区に社民党から米永あつ子さんが立候補を予定しています。自民党政権に楔を打ち込む絶好の機会でもあります。くろつち会の意気込みを見せてやりましょう。老体に鞭打ちながら頑張りましょう。



松尾 広豊美

共助会の行事

コロナ禍の中で共助会の行事は、開催されるかどうかと心配しましたが、共助会講演会(8/19)は盛会でしたし、ボーリング大会(10/20)も、参加者はほとんど現職でしたが大賑わいだったようです。



しかし、12月20日に予定していた、郷土のお菓子、肉桂だんご作りは、残念ながら諸般の事情により中止せざるを得なかったようです。次回に期待したいと思います。



次は2月14日予定のグラウンドゴルフ大会。今のところ予定通り実施の予定。

反戦・反核運動 金曜集会の継続

都合で1週延びましたが、12月11日は、この年最後の金曜集会でした。冬場は暮れるのが早いので、17時からです。勤めのある人にとっては厳しい時間帯です。

(国立天文台によると、鹿児島の日没の時刻は、11月末

から大雪の頃(12/7)までが一年のうちで一番早いようです。)

この日の日没は17時15分でしたので、集会が始まると間もなく薄暗くなってきました。その中で、行き交う車に向かって、反原発や馬毛島軍事基地化反対を訴えました。

1月8日は、早めの16時半

1/8



からの集会でした。雪こそ降りませんでしたが、かなり冷ええました(気象庁によると、鹿屋市17時気温は2.5℃、最高5.7℃)。そういう中で、集まったメンバーでシュプレヒコール。

「菅はヤメロ～！
「麻生もヤメロ～！」
「学術会議に口出すな～！」
「原発再稼働ハンタ～イ！」
「馬毛島軍事基地化ハンタ～イ！、馬毛島から出て行け～！」
行き交う車の運転手には、声が届いているはずですよ。

○ 2月の金曜集会は5日、いつもの17時からです。



12/18 夕刻のリナシティ前

最近の 気になるニュース

◆菅総理の会食問題は海外でも問題に。米某ジャーナリストの記事です。「国民には三密の徹底をお願いしながら、自らは与党重鎮や野球関係者、芸能人ら数人と長時間飲食に興じる一国の宰相がいたらしい」「その根本を分かっているようだ。ぼた餅的に総理大臣になった無能な政治家が馬脚を現してしまったということだ」
◆南日本新聞によると、昨年目

撃された航空機の低空飛行の件数が発表されたという。グラフを見ると、年々増えている。多くは米軍によるものようです。オスプレイやC130輸送機、ヘリなど。昨年(4~12月)は奄美市が断トツの60件だったという。馬毛島問題もあり、いず



れ、鹿屋市もそうなるかもしれないと思うと、看過できない問題だ。
◆今回の非常事態宣言、今回も場当たりのだ。国民の命と経済や支持率とを天秤にかけているのは明らか。しかも今回提出予定の第3次補正予算で、コロナ対策ではなくてGOTO関連予算に3700億円? 一体、何考えてるんだ。
◆12/4大阪地裁、大飯原発3・4号機の安全対策の許可を取り消した。今後の行方を注目したい。

光陰矢の如し 2

内なる時間

テレビから「笑点」のテーマソングが流れてくる。「えっ?もう一週間過ぎたの?」これは笑点の時だけでなく、我が家でよく交わされる会話です。若い頃と比べて、時の流れが早いなあ、皆さんもよく感じるのだと思います。かと思うと一週間前のことならまだしも、ついさっきのことまで忘れてしまうことも多い。「今日の予定、何かあった?」は毎朝のことです。
2016年7月号に「光陰矢の如し」という小稿の中で、怪しげな「ジャンネの法則」(1885)は論外としても、一橋大の一川誠氏の心的体内時計の研究や、教科書説明文でもおなじみの生物学者、本川達

雄氏のベストセラー「ゾウの時間ネズミの時間」などを引き合いにして、日々の時の流れに対して、僕が感じている焦りを書きました。今回は、その第二弾です。
アレクシス・カレルという人は臓器移植研究や組織培養法の研究で1912年にノーベル生理学賞をもらった人で、著作「人間—この未知なるもの」(中古で50円、送料350円)は世界中で読まれた本だそうです。
堅い話ですが、第5章でカレルは時間を、物理的時間(太陽時間)と生理的時間(内なる時間)に分けて考えています。血液検査でもそうですが、血漿から色んなことが分かるという。血漿に人の成長指数を考えて、その指数を誕生時1とすると、「太陽時間で幼児期と老年期では、幼児期は非常に短く、老年期は大変長

く見える。これに反して、生理的時間(注:内なる時間)の単位で計ると、幼児期が非常に長く、老年期がきわめて短くなる」と結論づけています。
そして「内なる時間」こそは人間そのものだと述べて、重視しています。つまり子供の一年とは質が違うということらしい。
時の流れを早く感じるのは経験が多いことの証で、何も焦る必要はないということだろうか。しかしなあ、それほど経験は深くないのに・・・。「あつ、今日は何曜日だっけ?」
(文責 樋園哲思)
(この本の終章近くになると、80年以上前だから当然とはいえ、カレルの精神病者への蔑視や白人優位、男性優位などの考えが垣間見えてきた。これ以上読むのに嫌気が差してきて書を閉じた。)



野草折々-39-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ。今回は、

ヤッコソウ (ヤッコソウ科)

シイノキの根に寄生し、群落をつくる。ヤッコソウ(奴草)の名は、全体の形が奴の練り歩く姿に似ていることからつけられた。

2018年11月3日溝部